

コンクリート技士試験完全攻略問題集 2010 年版 訂正箇所

2010 年 9 月 16 日

読者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、下記のとおり修正してお読み下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

12 ページ [問題 1] の解説 (2) (下線部を訂正)

(2) 高炉セメントは、混合材の量によって、A 種、B 種、C 種に区分されている。JIS R 5211 では、高炉セメント B 種の高炉スラグの分量を質量で 30% を超え、60% 以下と規定している。

A 種では高炉スラグの分量を質量 (%) で、10 を超え 30 未満、B 種では 30 を超え 60 未満、C 種では 60 を超え 70 未満に規定している。

40 ページ [問題 29] の解説 (5 行目「壁の場合で……」以下を訂正)

壁の場合で $R < 2$ [m/hr] のとき、側圧 (p) を求める。

$$p = \frac{W_c}{3} \left(1 + \frac{100R}{T+20} \right) \leq 150$$

ここに、 p : 側圧 (kN/m^2)、ただし、 $p < p_w$ と計算された場合には $p = p_w$ とする、 p_w : 液圧 (kN/m^2)、 W_c : コンクリートの単位容積質量に重力加速度を乗じた単位重量 (kN/m^3)、 R : 打上り速度 (m/hr)、 T : 型枠内のコンクリート温度 ($^{\circ}\text{C}$)

壁の高さ: 6.0m、打上り速度: 1.5m/hr、気温: 夏季 (25°C) のときの側圧は、以下のとおり。

$$p = \frac{W_c}{3} \left(1 + \frac{100R}{T+20} \right) = \frac{23.5}{3} \left(1 + \frac{100 \times 1.5}{25+20} \right) = 33.9 \leq 150 \text{ (kN/m}^2\text{)}$$

したがって、 $p = 33.9 \text{ kN/m}^2$ 、この最大側圧は $h = \frac{33.9 \text{ [kN/m}^2\text{]}}{23.5 \text{ [kN/m}^3\text{]}} = 1.44\text{m}$ の深さで生じる。この位置より下の側圧は、小さくなる。